

東京都の新たな被害想定について ～首都直下地震等による東京の被害想定～

平成24年7月14日(土)
防災セミナー

○ 東日本大震災を踏まえ、現行の被害想定を見直し

- ◆ 客観的なデータや科学的な裏付けに基づき、より実態に即した被害想定へと全面的に見直し（地震モデル、火災の想定手法の改良）

再検証	【首都直下地震】	東京湾北部地震 (M7.3)	首都直下地震防災・減災特別プロジェクトの研究成果を反映し、最新のモデルで検証
		多摩直下地震 (M7.3)	
追加	【海溝型地震】	元禄型関東地震 (M8.2)	大規模海溝型地震の検証
追加	【活断層で発生する地震】	立川断層帯地震 (M7.4)	地下の浅い部分で発生する地震の検証

- ◆ フィリピン海プレート上面の深度が従来の想定より浅いという最新の知見を反映



震源が浅くなるため、従来の想定より震度が大きくなる

- ◆ 津波による被害想定を実施



過去の記録等で、都内に最も大きな津波をもたらしたとされる元禄関東地震（1703年）をモデルとして検証

○ 想定結果の特徴

- ◆ 最大震度7の地域が出るとともに、震度6強の地域が広範囲に
- ◆ 東京湾沿岸部の津波高は、満潮時で最大T.P.2. 61m（品川区）※地盤沈下を含む。（T.P. = 東京湾平均海面）
- ◆ 東京湾北部地震の死者が最大で約9,700人

震度6強以上の範囲は、東京湾北部地震 区部の約7割
多摩直下地震 多摩の約4割

河川敷等で一部浸水のおそれがあるが、死者などの大きな被害は生じない

区部木造住宅密集地域で、建物倒壊や焼失などによる大きな被害